郵便物認可　【年八廿銭物　日一廿月六】　明治廿九年十一月廿五日　（第四十一號）　（一）

東京小間物新報

雜報

墨田獨條約

青木公使と獨國外相マルシヤル男とが本年四月四日伯林に於て調印し八月廿六日我皇の批准を終へたる墨獨條約は愈〻去廿日の官報を以て公布せられたり本條約は日英條約を基めとして是迄の改正條約と大同小異なりと雖も其他に至りては頗る異あるを見る先づ其種類を掲ぐれば左の如し

本條約　本條約附属議定書及税目
領事職務條約　同條約附属議定書
公文七通（在復共）

本條約

本條約は右の如く日英條約其他と大差なし故に全文の掲載を略す唯左の數ケ條は其著るしく異なる所にして近來有名の一問題となれる特許權に關するものなりとす

第十七條　両締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内に於て發明、見本（實用に供せる見本共）雛形、商標、製造標、商社號及び其の他の商號の保護に關し法律の定むる所の條件を遵守するときは内國臣民と同一の權利を享有すべし

第二十一條　本條約は第十七條を除くの外は日本國皇帝陛下の政府に於て之を實施せんと欲する旨を獨逸國皇帝普魯西國皇帝陛下の政府に通知したる後一箇年を經て之れを實施するものとす

云々（中略）

本條約第十七條は本條約批准交換の日より實施せらるべし而して両締盟國に於て別に取極を爲さざるときは本條約の他の條項效力を失ふに至る

右の第十七條其ものは日英條約其の他各條約にも「法律に定むる所の手續を履行するときは專賣特許商標及び意匠に關し内國臣民と同一の保護を受くべし」とありて文字に異なれ同意味のものあるなり唯其批准交換即日實施ではなく其大に異なる所以なり」此等本條約に有りて日英條約に無き所のものは左の如し

第八條　両締盟國の一方の版圖内に到る他の一方の臣民は其人及注文頭書表書が見本として輸入したる商品に對しては其の國の法律を以て定められたる期日内に再輸出することゝ為す而して右再輸出の爲め及税關倉庫へ送戻す爲め必要なる定式を履行するに於ては輸出入に關する一切の取立金を免除すべし但し右見本の再輸出に付ては最初輸入の際其の輸入地に於て其の税金に均しき金額を預け入るゝか又は擔保を差入れて之を保障すべし又見本帖、見本の一部及び見本びらは嘗見本用に適するに過ぎざるものは前項に掲載せしもの以外の方法に依り輸入せらるゝときと雖も其の輸入税を免除すべし

第九條　國、市、町、村若は團體の爲めにするに暗く両締盟國の一方の全版圖内又は其の一部分に於て或物品の生産、製造又は消費に對し内國税を賦課するときは他の一方の版圖内より輸入せられたる同種の物品に對しても前記の全版圖内又は其一部分に於て同一の税を賦課することを得るも之より多額又は苛重の税を賦課することを得ず

同種の物品にして前記の全版圖内又は其一部分に於て生産、製造せられず若は生産、製造せらるゝも之に對して課税せられざるときは何等の税金をも賦課することを得ず

第十八條第五項　右居留地内の地所占有權は將來に於ても從來の場合に於けるが如く領事官廳若は日本國官廳の認可を得ることを要せずして其の占有者は自由に之を日本國人若は外國人に對渡することを得べし

而して日英條約にある領事に關する二ケ條（駐劄人取戻の爲め地方官の補助を與る件、領事設置及職務執行の件）は本條約に無し是れ別に領事職務條約なるものを締結したるが爲めなり

議定書（本條約附属）

議定書は半は日英條約に同じく半は之に異なれり其本文即ち左の如し

第一條　條約第一條に付日本國政府は内國を開く迄は獨逸國臣民に對し現行の旅券方法を據張することに同意す即獨逸帝國臣民が在東京獨逸國代表者若は日本國開港場に駐在する獨逸國領事官よりの紹介證書を所持して出國するに於ては十二箇月を超えざる期間何れの地へも到ることを得べき旅券を東京外務省若は開港場所地方官廳より交付すべし但し帝國の内地に旅行する獨逸國臣民に關する現行規定に之を侵襲するものと知るべし

第二、條約第一條及第三條に付両締盟國の其の一方の臣民が他の一方の版圖内に於て内國臣民と同樣不動産權の取得及び占有を許すことに同意す

第三條　両締盟國の本日調印したる通商航海條約批准交換後六箇月を經たる後本議定書に附屬する輸入税目に掲げたる物品にして獨逸國の生産品又は製造品なるときは之を日本國へ輸入する場合に該税目を適用することに同意す尤両締盟國の間に千八百六十九年締結の現行條約の有效なる間は其の第十九條の規定の效力を妨げず又右條約消滅後も本日調印したる通商航海條約第五條及び第十六條の規定に準據すべきものとす但し日本政府に於て純良ならざる藥材、製藥、食物若し飲料、猥褻の印刷物、圖書、書籍、紙牌、石版、彫刻書、寫眞及び其他の猥褻なる物品竝に日本國の發明、商標又は版權保護に關する法律に違背する物品及び其の他衛生、公安若は風俗に關し危害を生ずべき物品の輸入を禁止し又は制限するの權利は本議定書又は其の附屬税目の爲め制限せらるゝことなかるべきものとす

該税目に掲げたる從價税は之を實行し得べしと認めらるゝ限り両國政府間に成る可く速に締結せらるべき追加條約を以て日本國現行本位銀貨に換算すべき從量税に改むべし

右換算の基礎は本議定書の日附より前六暦月間に於ける日本國税關報告に明載する平均價格に仕入地、產出地若は製造地より陸揚地に至る迄の保險料及び運賃を加算し又手數料あるときは之をも加算したるものを以てすべし

然れども両締盟國は附屬税目第二號、第十一號、第十八號、第十九號、第二十號、第二十一號、第二十四號、第三十號、第三十一號、第三十八號、第三十九號、第四十號、第四十一號（第四十四號、第四十七號、第四十八號、第五十一號及第五十九號に掲げたる物品に關しては日本國と大不列顛國との間に協定したる從價税を從量税に換算する方法を獨逸國よりの輸入品に對しても準用することに同意せず從量税に改正する迄の間及其の改正を爲さゞるものは附屬税目の末尾に掲げたる規定に從ひ從價税を取立つべし

附屬税目に掲げざる物品に對しては本議定書批准交換後六箇月を經たる後は千八百六十九年條約第十九條の規定及本日調印したる通商航海條約第五條及第十六條の規定の效力を妨げずして日本國普通國定税則を適用すべし但し右國定税則竝に後來之に改正を加ふる場合あるときは其の改正を獨逸國より日本國への輸入品に適用するには六箇月以前に公布すべきものとす

前記の從税目實施に至るまでは現今日本國に於て獨逸國の物品及び商品に對して施行せらるる税目

此の外編ては本條約及其の附屬書類に於ては本日調印したる通商航海條約の實施に付

らるゝに至る迄は無條件にて其の効力を有すべきものとす

第四、條約第十七條に付兩締盟國い他の一方の臣民が發明（見本實用に供する見本共）雛形、商標製造商標、社號及其の他の商號の保護に關し法律に定めたる條件を遵守するときは各々其の版圖内に於て該臣民に右の保護を與ふることを同意す尤兩締盟國は專賣特許（見本商標製造標の保護に關する雙方の關係に付別に締結することあるべし而して右條約を締結するに相當の商議を開くべし

又日本國政府は日本國に於ける獨逸帝國領事裁判權の廢止に伴ひ版權（思想上の所有權）に關する列國「ベルン」條約に加入すべき事を言明す

第五、條約第二十條に付

日本國内に於て獨逸帝國領事官廳の執行したる裁判權は本日調印したる通商航海條約の全部の實施と同時に自然に消滅するに拘はらず兩締盟國へ右條約全部の實施の時に當り裁判中に在る總ての事件に關しては其判決に至る迄該裁判權を繼續することに同す

第二は今度新に言明したるものにして第三の六箇月とあるは是迄の各條約には皆一箇月とありしなり

第四（三項を除く）第五亦新創に屬す而して此議定書に附屬する稅目を定めたるは日英條約を除くの外他の改正條約に無き所とす

▲日獨條約附帶の省令

日獨條約は特許權の事を批准交換の日より實施するに約定したるを以て政府は去廿日條約公布と共に左の省令を發布せらる

農商務省令第九號

第一條　外國在住者にして發明の特許、意匠、商標の登錄に關し出願又は請求を爲すときは帝國内に在住する者を以て代人となし委任狀を提出せべし

第二條　外國人にして特許又は登錄に關し出願又は請求を爲すときは其願書又は請求書に國籍證明書を添附すべし

第三條　願書、明細書、請求書其他屆書類は日本文にて認むべし

第四條　代人委任狀國籍證明書等外國文にて認めたるものは譯文を添附すべし

▲特許局の分課規程改正

獨逸條約を公布せられたるに付農商務省に於ては同省分課規程中左の通り改正せらる

第二十四條　特許局に書判課書記第一課書記第二課書記第三課書記第四課書記第五課書記第六課書記第七課書記第八課書記第九課及書記第十課を置く

第二十五條　書判課に於ては左の事務を掌る

第二十六條　書判課に於ては左の事務を掌る

第二十七條　書判課に於ては左の事務を掌る

第二十八條　書記第三課に於ては農林工業ノ發明ニ關スル書記事務を掌る

第二十九條　書記第四課に於ては化學工業ノ發明ニ關スル書記事務を掌る

第三十條　書記第五課に於ては電氣工業ノ發明ニ關スル書記事務を掌る

第三十一條　書記第六課に於ては他課ノ主掌ニ屬セサル發明ニ關スル書記事務を掌る

第三十二條　書記第七課に於ては商標ノ再審査ニ關スル事務を掌る

第三十三條　書記第八課に於ては發明意匠ノ再審査及發明ノ抵觸ニ關スル事務を掌る

第三十四條　特許課に於ては左の事務を掌る

一　特許願書及意匠商標登錄願書檢閲ニ關スル事項

二　厚權登錄願書知關スル事項

三　登錄簿謄本ニ關スル事項

四　賣渡願與共有及書入ノ登錄ニ關スル事項

五　特許證及登錄證作成ニ關スル事項

六　公文通信等ニ關スル事項

七　圖面調製書類謄本ニ關スル事項

八　他課ノ主掌ニ屬セサル事項

第三十五條　圖書館ニ於ては左の事務を掌る

一　圖書ノ出納保管及閲覽ニ關スル事項

二　標本雛形見本ノ出納保管ニ關スル事項

三　内外國書籍雜誌ニ關スル事項

四　明細書及公報編纂及配付ニ關スル事項

五　刊行物及其保管ニ關スル事項

▲かるた（禁轉載）

▲モールかん差　梅、菊、牡丹、鳥、松竹梅、水仙、福壽草、其他丸さ房付物非常の賣行

▲同根掛類　右同樣の品上中下とも賣口はよし

▲つまみ花かん　丸菊、七寶、梅、菊、上房付物賣口よし

▲生花かんさし　梅、福壽草、松竹梅、總て一月物向よし

▲生花かんさし　梅、福壽草、松竹梅、總て一月物向よし

▲美女花かん、メリンス花かん　同樣多分賣行あり

▲ゴム花かん類　れ染菊、大中小、大、小、旭菊、大中小、大、小、寄梅花類最も賣行あり房い半染、無地、市松、源平、至つて長房の賣行あり其他鳥籠、大中小、松竹梅、鳥計りの房付、形物各種いづれも一月物向よし

▲ゴム生花かん差　梅の石八、牡丹、各種、極上出來物賣口よし

▲洋花かん　房付物、小形の類賣行あり

▲アルミかんさし　石入各種上製の品向よし

▲角足かんさし　安即物い、白紳付、扇入、赤さ玉付類、かさ付、紳付、扇入、遠摩、小町、天神用の物賣口よし

▲鐵足　研出し、朱塗足、紳付、玉なし、琴柱、鈎足、小町、大中並其非常の賣行

▲推朱足　紳付、平目入、右同斷の形にて玉ハ金地玉、推朱玉、瑪瑙玉、蓮彫玉等賣口よろし

▲本足甲足　玉い金地彫、推朱彫、蒔繪玉、アルミ玉、透玉、さゝなみ彫玉、平目入の類賣口よし

▲黒唐足　右同斷の類向よし

▲一等洋足　琴柱、祇園、小町、よし町、一五付よりの付けで各種とも非常の賣行あり

▲並洋かんさし　右一等洋白と同じ

▲鐵類　懐中物、二枚硝子鞘付名所軍人、美人、彩色繪、寫眞、都名所、諸官省、花鏡等最賣口あり

▲同　一枚硝子　二ッ折各種ボツ〳〵の賣行

▲ゴム製小町鏡　發賣以來其日猶は淺きにも拘らず頗る好評賣行よし

▲硝子　小判、角形、黑塗繪つき、朱丹ぬり、其他極上等物より並物數種いづれも向よし

▲天其鐵　七寸より四寸まで、桑鞘、桐鞘、各種とも相變らずの賣行あり

▲鎧鏡　何れも臘貴の姿なれ共賣行は大によし

▲髮掛類　水壽賀、無地、段物、直印低廉の賣口よし

▲紙密賀　賣行最も宜し

▲紙變賀　賣行相變らず

▲改良嗅引紙壽賀　金入非常の賣行あり（丸善商店の特製）

▲瀬川　相變らずの賣行

▲縮緬川　右同斷

▲白寒引　二ッ三ッ四ッ相變らず向よし

▲金玉長　寸、二寸、八分、七分、六分非常の賣行

▲鯉丈　相變らずの賣行なり

▲金紋、糸紋、アロ紋、太、中細共相變らずの賣行あり

▲金繩、極太、太、中、細、相らずの賣行あり

▲糸繩　右同斷

▲龍紋紬り類　市松、役紋、松川、段染、無地、友禪、三浦、眞砂とも非常の賣行

▲同鐘取紬り　賣行最もよし

▲瓶の葉　中並物とも賣口よし

▲モス　金入、無地、極長、中長、並尺賣口よし色い赤、桃、水、淺黃、ひは、新竹、紺、黑、肉、神休、利休等なり

▲同三浦紬り　右同斷

▲毛糸手拭　金入、金なし、大いに賣行あり

▲米綿手拭　上中並とも賣口大によし

▲金安田、銀安田、相變

▲江水舍主の寫大　石鹼製造を以て有名なる牛久の江水舍主松平小六郎氏い近來同舍の登錄商標を摸造して販賣する者の組合員中にあるを發見し其處分方を事務所へ請求に及びしより同事務所にては其証跡を取調たる上右摸造者に對し規約の通り違約金として金若干を出さしめ猶諸新聞紙上へ謝罪の廣告を各三日間づゝ掲載すべしと命じたるに松平氏は之を聞き否既に本人に於て前非を後悔し後來決して斯る不德義の事はせぬと云からには之を新聞紙に公けにして世に其過ちを知しむるも甚だ氣の毒なれば縱や規約上に明文あるにもせよ謝罪廣告だけい宥免ありたしとの事より本人は勿論事務所も亦其寛大なる處置に感したりと云ふ

▲ばらの香　彼の馬喰町三丁目武井龍三氏の製造販賣に係るばらの香い近來原料其他の非常に騰貴せし折柄にも拘らず益々品位を精煉し容器定價等は從前の儘に据置ある處から各地よりの注文日々今度更に數名の職工を增員し需用者をして滿足せしむるの準備整ひたりと云ふ

▲都の花の五週年　其品質の純良なるより日に月に非常の聲價を博しつゝある馬喰町四丁目東京莊園堂の麝香煉ねしろい都の花は來刻美味來本月五週年相當に付日は日は祝酒を表する爲親戚知己等を招待し自店樓上に祝宴を開ふ

▲東京の移轉　同本舗田中東洗堂は今度日本橋區村松町へ製造所を設け且つ自らも其監督旁々同處へ移轉し爾來益々斯業の擴張を計ると云ふ

▲象印はみがき　例のみがき土產として有名なる日本橋區蠣殼町安藤井筒堂の同品は日を逐て益々好評を得近頃は各地よりの注文も殊の外多きよし自然其製造をも間に合ぬ位なりと云ふ

▲羽衣石鹼　日本橋區小傳馬町三丁目石井勇助氏製造販賣たる羽衣石鹼と云るは既に陸軍外醫瀧監石坂惟寛氏及醫科大學藥學士兒島嘉里氏等の証明あれど其品質の他に優て功驗の著るしき今更喋々を要せざる事なれ今其品にあらざる事の世間に樣々なる程の多類なりと云ふ

學輯淡に付寄附金の謝辭い號次

本組合録事

▲新加入者　左の二會社一氏は今般本組合へ加盟の旨届出ありたり

日本橋區堀江町二丁目　平谷合資會社

神田區橋本町三丁目五番地　盛櫻堂　石田長吉君

▲移轉　本組合員東洗堂田中辰次郎は今般營業上の都合により日本橋區村松町四十八番地へ移轉の旨届出ありたり

▲吊詞贈呈　本組合員横山町一丁目中村喜三郎君の祖父喜兵衛君ハ此程逝去せられしに付組合員一同を代表して頭取より吊詞を贈れり

▲即日實施と外人の登録願　日獨新條約の特許權に關する條條は發表の即日より實施せらるゝ事として早くも發表の當日農商務省特許局（商標登録）を出願せしもの二十八件ありたり又去る十九日英米人より最惠國條款に依り登録せしもの二百餘通ありしも同局にて未だ其筋より受理に關する何等の分達あらざるを以て英米の分は一先づ却下したりとなり

▲明治製帽株式會社　今度京橋間の帽子製造販賣及び西洋小間物卸商なる三十餘名の諸氏申合せて標題の如き會社設立を計畫し既に其筋へも發起申請書を進達して最早日あらず認可の運びに立至りつゝあり而して該會社設立の趣旨を聞くに抑々毛帽子を製造販賣し以て外國品の輸入を防遏するは國家經濟に於て最も緊急の事業たるのみならず既に一二の製造會社はあれども起ても未だ需用と供給と相待つ能はざるの感ありて其結果動もすれば價格騰貴するのみにて却て斯業の發達に沮害を與ふるの恐れあれば是等の事業と放棄するは同業者の大いに忍びざる所にして又發起者の希望にも之ある旁〻當分は金七萬五千圓を以て營業を開始（一株に付金十五圓の拂込）する由なるが同株券は發起人に於て過半數を引請け餘株とては勿論多分に之なきも株主は成べく同業者若くは發起人中の御人より募集し別に廣告を以て株主募集の手續等はなさざるも甲乙とも強て株主たらんと望む人の多きより或ひは場合により發起人の株にても相減じて譲らざるを得ざるの勢ひなりと云へども此し該創立事務所は京橋區銀坐三丁目廿二番地にして其發起創立委員は、仮島榮助、石原彌七、堀川長兵衛、川島光之助、田村紋吉、長瀬宮郎、山口幸次郎、山鄕保三郎、三枝與三郎、澁井貞次郎の諸氏なり

▲商人宿申合會店則　本組合員各店に於ては既に店員相談會なるものさへありて互ひに親を結め信義を重んずるを以て勤めともつゝあれど他商の組合にては斯の如き事は毫末も顧みず品行甚だ正ならざる者の多きより我々も之を耳にする毎に眉を顰むるの外なかりしが此等の惡弊を防ぐ爲めにや今度東京旅人宿組合内に商人宿申合會なるものを設け左の如き店則を實施するに至れり

商人宿申合會店則

一出入の各商人は滯在の旅客へ面會を求むるときは其戸主と雇人に拘らず晝間は其店の名刺夜間は必ず其店の標章を付したる提燈を携ふべし

一下駄番等は各自に於て注意を加へ番一船失又は風邊ひあるも當店は其責を負はず

一各商人の出入時間は左の如く限る　午前七時より　午后十時限り

一客場に面會人の氏名を入店主の承諾を得て客室に至るべし

一旅客の喫飯前又は喫飯中は客室に起居すべからず且旅客の承諾を得ずして猥りに室内に入る可からず

一此の規則に違ひ不法の行爲ありたる者は東京旅人宿組合内に於て相當の懲罰を加へ且旅客の承諾なく富士見加多の製法に依らざるものは一切の客室に入る可からず

一左に列記せる諸項を犯すべからず

旅客室に於ては商談の外空談に時間を消費し

旅客の妨害をなすべからず

旅客他出中の空室に出入すべからず

一客室の内外に於て放歌空談喧騒に渉る可らず

一旅客の需めたりとも賭博は勿論右に類似の戯をなす可からず

一旅客の需のたりとも遊里に同行且誘引すべからず

一旅客の承諾なきに物品又は見本品等を室内に差置く可らず

一旅客に迫り强賣をなすべからず

此店則を犯したるものは出入を差止本會々員旅店一般へ通知し且店内へ其氏名を特筆掲示すべし

東京旅人宿組合内　東京旅人宿申合會

明治廿九年十月

謹告　東京市本所區進行舍製造ノ石鹸類ハ總テ販賣店ニテ買拂居候間此段愛顧諸君へ御報告候也

●特約販賣●日本橋區馬喰町三丁目　瀬戸●同區馬喰町二丁目　竹屋●同區馬喰町二丁目　萬金●同區馬喰町二丁目　花王堂●其他全國至所ノ小間物店ニテ販賣致シ居候●東京本所　進行舍

芳香　日本觀農會社製造　リスリン　發賣元　田中東洗堂

右は從來同會社より二手發賣致居候芳香（リスリン）例年の通り本月より賣出し候殊に本年は非常の騰貴なれども弊舗にては益々勉强を以て前年通の直印にて且製造も精工を究め販賣仕候本品は年來賣高益々盛大相成所より近年以來の品柄に付御仕入の節は觀農會社の名義等能く御確認あり東洗堂の同樣倍賣御愛顧之程偏に奉願候

東京日本橋區村松町四十八番地　東洗堂　田中東洗堂

●東京市内に評判のよき　ねりおーろい花の雪

登録商標　花の雪

大瓶共口　定價金卅錢
中瓶共口　定價金三錢
小瓶　定價金六錢

一此の規則に違ひ不法の行爲ありたる者は東京旅人宿組合内に於て相當の懲罰を加へ且旅客の承諾を得ずして猥りに室内に入る可からず

一左に列記せる諸項を犯すべからず

旅客室に於ては商談の外空談に時間を消費し

旅客の妨害をなすべからず

旅客他出中の空室に出入すべからず

一客室の内外に於て放歌空談喧騒に渉る可らず

一旅客に迫り强賣をなすべからず

此店則を犯したるものは出入を差止本會々員旅店一般へ通知し且店内へ其氏名を特筆掲示すべし

東京旅人宿組合内　東京旅人宿申合會

明治廿九年十月

大坂屋　松澤八右衛門　富士見加多本舗　東京市京橋區銀坐三丁目　電話番號五百三十四番

發賣本舗　東京淺草橋際　齒磨本舗　阿部彦四郎

特約代理販賣店（姓名組合名簿順）

東京日本橋區横山町一丁目　天野源七郎
全區　全町　中村喜三郎
全區　全町　柏屋善藏
全區　全町　前川忠兵衛
全區　全町　佐野善兵衛
全區　全町　江川金右衛門
全區全町二丁目　中花王堂
全區　全町　田盛眞
全區　全町　森本支店
全區橋町三丁目　淺井碩成
全區全町四丁目　丸見屋善兵衛
全區　全町　炭屋定七
全區　全町　富岡初太郎
全區　若松町　大和屋小兵衛
全區　通鹽町　平尾賛平
全區馬喰町一丁目　小田善兵衛
全區　全町　田中東洗堂
全區　油町　村田藤七
全區　全町　伊之助
全區馬喰町一丁目　大坂屋
全區全町三丁目　大野金五郎
全區大傳馬町二丁目　秋田屋藏
全區兩國吉川町　汐見儀兵衛
淺草區花川戸町　尾張屋德太郎
横濱市石川仲通　山上福藏
全市不老町一丁目　金子榮吉
全市尾上町五丁目　島田辰五郎
大坂市南久寶寺町　寺澤覺兵衛

以下全國無限の取次販賣店あれ共略す

登録商標　都　改良白粉　白田屋白粉　保証　丸

▲臨時博覽會評議員　明治三十三年巴里に開く世界博覽會に就ての評議員は去十六日左の通り命せらる

平山成信　古市公威　顧田四郎　高橋琢也
安藤天郎　山高信離　手島精一　岡倉覺三
鹽田眞　前田正名　村田保　塩澤榮一
和田垣四郎　土居通夫　水野錬太郎　高木兼寛
平賀義美　渡邊叡　安場保和　喜多村束
早川鼎介　田中市兵衛　大倉喜八郎　森村市左衛門
東尾平太郎　改野耕三　虎島秀廣　松尾寅三
藤本莊太郎　阿部孝助　小畑岩太郎　中村栄助
田中源太郎　内貴甚三郎　金田一郎　松尾儀助
鈴木房次郎　本山彦一　益田孝　森精太郎
大谷嘉兵衛　山本達雄　浜尾新　松田源五郎
森山茂　飯田延太郎　濱尾新　光吉
滝野豊次郎　樋口勇夫　下城彌一郎

▲桑港商業會議所員の渡來　米國桑港商業會議所にて今回同港と諸外國間に於ける貿易の發達增進を謀るの目的を以て新に外國貿易課なる一課を設けたる由なるが先づ日本及び支那貿易の進捗を圖るが爲め各殷の調査をなさしめんとし同會議所員ダブルユー、ブール、タウンセンド氏を本邦に派遣する趣き之に關し在同港船舶領事官事務代理より其筋へ左の報告あり

當港の重立ちたる實業諸團体より成立てる委員會議の決議を以て本年五月中當港商業會議所内に外國貿易課なるものを設置し當港と諸外國間に於ける貿易をして益發達增進せしめんとする目的を以て專ら日本支那濠洲中央亞米利加及南亞米利加の商工業に關する實地の狀況調査をなしに今回貿易課の特務員ダブルユー、ブールに一人タウンセンド氏を以て日本支那に派遣し親しく兩國の現狀を視察せしむることに決定せり今回氏が外國貿易課より委任されたる條件なるものを聞くに東洋諸國の重なる市村を巡視して桑港と日本支那間に於ける貿易の進歩を計るに有要なる報告材料を蒐集する事又當港の各實業家よりの委託に依り其商店を代表して其事務を處辨し得べき事是なり使て同氏は當港の重立てる生產品麥粉材木製革護謨品雜貨品機械類藥品銅鐵類金物類鞍靴石鹼自轉車馬車具酒類食品電氣機械等の製造家或い販賣店を代表して各種の見本品を携帶渡航の暫なるを以て同氏の渡航は當港の貿易に著眼せる本邦實業家の爲めには多少便益あるべしと云々

▲全國の戶口　昨廿八年末現在左の如し

戶數　七百九十三萬五千九百六十九戶
人口　四千二百二十七萬二百二十人
內（男　二千百三萬四千七百五十人
　女　二千九百十三萬二百七十人）

▲百歲以上の人　昨年末の現在者左の如し

百一　四十七人男十八人女四十五人
百二　三十六人男十一人女二十五人
百三　三十三人男七人女十六人
百四　九人男二人女七人
百五　十一人男二人女九人
百六　三人男二人女二人
百七　三人男一人女二人
百八　三人（皆女）
百九　なし
百十　一人（男）

▲暦法改正の議　來一千九百年佛京巴里に開設さるゝ萬國大博覽會の時に際して催さるべき大會中に於て暦法改正の議を提起さるべく而して此改正法は專ら通商貿易上に至便のものもあ英米兩國に贊成者多くしてのことなり即ち新暦法にては全く天文學上太陽の回轉に順ひ七十一年を十三ケ月に別ち前十二月の日數各二十八日とし最後の十三月は平年二十九日閏年三十日とする仕組にて新くする時は毎月四週間づゝあり七曜は毎月同日に當るべく即ち一月一日は月曜日に當るとすれば毎月一、八、十五、廿二、廿九の日は必ず月曜日に相當して頗る便利なるべしと云ふにあり

▲ペーパス石鹼と廣告　有名なるペーパス石鹼の製造會社が諸種の廣告に費やせる金高を是より得たる利益の割合なりと云ふに據れば千八百八十五年の廣告料は三萬千磅にして其收益は三倍に上り翌年い五萬八千八百磅を費やして十一萬七千五百磅即ち二倍の利を收め超えて千八百九十一年は十萬三千六百磅の廣告料を投じて十六萬六千七百磅の利益を得たり又これは七年間に廣告に費やせる金額は總計五十八萬三千磅に達し之より得たる利益は九十五萬八千磅なりと云ふ左れば一磅を九圓三十錢として換算する時は右七年間の廣告料は五百四十二萬千九百圓となり更に一年に平均すれば七十七萬四千五百圓の割合となる可し

專賣特許人造珊瑚珠

今般弊舗に於て發賣仕候人造珊瑚珠の儀は製作者多年の研究を以て始めて發明致候に付き本邦の珊瑚珠と異なる者にして純粹の人造珊瑚珠と唯一無二の品にて其色澤は本邦の珊瑚珠と毫も異ならず從來如く卑しき品に無之古渡の珊瑚珠特有の性質に至る迄化學的に模造しの候へば實に其儘にて貴婦人令嬢方の御需に應じ耻じきらにあらず玉類に愛讀あるは人と雖も決して自然光澤を增し恰も古渡り珊瑚珠と識別するに困難なる程に巧妙精巧なる程に能はざるは眞偽の區別なく且つ實に不思議の製作なる程に殊に色澤は何年御用ひ成るに從ひ愈々光澤を增し永御使用相成るのみならず損等なは弊堂誓て保證仕候間御用の方へ御申越之上御試驗の上御注文被下度候

替可申上候

特許人造珊瑚珠

東京下谷池の端仲町廿九番地　貴金屬美術裝飾物商　玉質堂

長岡商店

東京市神田區鷹匠町　甲冑刀劍珠玉
須田町六番地　橋本商店
大阪賣店　長岡商店

特許人造珊瑚珠

芳香藥及化粧品類原料販賣廣告

弊店從來各國芳香藥品類專門販賣仕候處今般最近輸入新藥類種々到着致候に付き御用向之原料精選價に可仕候間御愛顧之上萬事御經便仕度旨トシテ勉强仕候間御愛顧を以て多少に不拘御注文被仰付度本希上候御用向之際は電話又は郵便を以て御通知次第何と御相談可仕候地方御得意樣へは郵券二錢相添御通知次第相應表御送り可申候

東京市日本橋區本石町三丁目拾八番地
大坂屋
井上太兵衛
電話千三百三十七番

タ　芳香藥種問屋

光祖濃厚白入リスリン
東京横山町三番地
藥舗本喜兵衛

貴嬢紳士必需の香料

人造麝香

高橋

大瓶價六拾五錢
小瓶價三拾五錢
其他香料原料に
用ゆる七分五厘及壹匁入及壹匁入あり
弊舗發賣の人造麝香は佛國製造元より持約輸入し他に此類なき純良品として高尚優美の芳香を放ち方今普く天下に高評を博し居り此人造麝香を携帶せられば總ての惡臭を防ぎ他人に對し身の省慎となり惡疫の感染を豫防し必用の性質なり術生新奇手段必用の性質なり
類似の偽製品あり御求の際は登錄商標および東京日本橋區伊勢町十七番地の名義に確と御注意あれ
特約發賣元
日本橋區伊勢町十七番地藥種問屋
星野
電話本局九百三十九番
星野眞兵衛

市內は勿論各地の藥店又は小間物店へ
●賣捌候○取寄捌望の方へ御申込あれば
●取次所市內寄小間物店へ
●札幌南一條西三丁目
●武州川越町
●名古屋市宋廣町
●京都市五條通高倉西入
●富山市大字柳曲輪
●越後國中蒲原郡白根町
●伊勢國津市立町
●橫濱市伊勢崎町
●東京市神田區鷹匠町
●須田町六番地
●仲町廿九番地
●東京下谷池の端
●大阪賣店

拜啓各位御繁榮之段奉賀候偖て私儀是迄愚兄方に於て販賣仕候間從前に倍し御愛顧御引立之程伏て奉願上候

革地袋物類

拜啓各位御厚情に依り分家致し立之程伏て奉願上候

革地袋物類

拜啓各位御厚情に依り分家致し立之程伏て奉願上候

革地袋物類

小間物商　水野彌吉

開店之御披露

拜啓各位御繁榮之段奉賀候偖て私儀是迄愚兄方に於て販賣仕候間從前に倍し御愛顧御引立之程伏て奉願上候

革地袋物類

東京市日本橋區堺町十四番地

水野常次郎

本品ハ發賣以來製造高日ニ月ニ增加シ販路益隆盛ニ赴キ多ク品質ノ優良ナルヲ以テ諸君ノ御愛顧ヲ蒙リ其効能ハ世間ニ數多ある膏藥ノ上ニ超シ諸君ノ御引立他不成深ク本品ハ改善ヲ加ヘ諸君ノ御厚意ニ謝シ目下原料容器等ハ金高ニ爲ス一層勉强仕候間何卒御愛顧御引立之程奉願候

定價　貳錢

新化粧劑品

元祖

効能

白粉下に用コレハ能ク肌ヲきめをこまかくし顔手足ノアレ等ニ至極奇妙ナリ

本品ハ有功確實ナルハ既ニ使用諸君ノ知ラル、處ナリ何卒めさせ同樣御引立ノ程偏ニ奉願上候謹言

製造本舗　東京市　萬屋金五郎

販賣　小間物商組合各店

第三回内國勤業博覽會に於て褒狀拜受

製造本舗　東京新橋　福原資生堂

販賣　尾張町一丁目　平尾賛平　佐々木

（爆製大器金二十五錢）

（爆製小器金十五錢）

（粉製金十五錢）

世界一祖

あれもこれも

俳優諸君の別あつらへ

至急廣告

俳優諸君の別あつらへ

野田藥師特製

小瓶　中瓶　大瓶

本舗　伊東鬼外堂　敬白

菊の露

うら梅

東京新橋十郎町四番地

兼て鬼外堂より發賣のあれしらずを以ておしるいを解或はおしろい下に使用せしに全く效ある類なれば各位樣へ御吹聴仕り野田藥師調製あれしらずに限り眞實佳良優等品たる

市川左團次　市川米藏

市川染五郎　尾上菊五郎

尾上榮三郎　中村福助

市川團十郎

特約　太平堂　本舗　東京日本橋區通町四番地

賣店　銀座一丁目　佐々木屋

橋通一丁目　平尾

橋町四丁目　尾張屋

丸山町　見屋

山形屋

仕立屋

本舗　東京日本橋區通町四番地

賣店　銀座一丁目　佐々木屋

橋通一丁目　平尾

橋町四丁目　尾張屋

丸山町　見屋

山形屋

仕立屋

本舗　東京日本橋區通町四番地

賣店　銀座一丁目　佐々木屋

橋通一丁目　平尾

橋町四丁目　尾張屋

丸山町　見屋

山形屋

仕立屋

帽子製造販賣

M　沼倉商店

東京日本橋區通町四番地

改良蟻引紙壽賀

（前號出售）

（金拾五錢）

御一報次第本品進呈

改良蟻引紙壽賀

豫て弊店に於て製造賣出す改良蟻引紙壽賀は數多の年の研究と數多の辛酸に依て漸く今日の新品を得たるものにして諸人愛賞の美術と信じ其價の高低は敢て問はざる所なり

改良蟻引紙壽賀

豫て弊店に於て製造賣出す改良蟻引紙壽賀は數多の年の研究と數多の辛酸に依て漸く今日の新品を得たるものにして諸人愛賞の美術と信じ其價の高低は敢て問はざる所なり

發賣元　東京橋町四丁目

改良蟻引紙壽賀本舗

發賣元　東京橋町四丁目

改良蟻引紙壽賀本舗

○特製　小間物問屋　丸見屋善兵衛

○特製　小間物問屋　丸見屋善兵衛

パイプ製造元

ライスペーパ各種

薄荷パイプ材

舶來パイプ問屋

東京市日本橋區通り壹町四番地

（但シ賣店筋向）

越

菅谷爲吉

昨冬賣高三千萬個

新發明化粧品　元祖西洋花いかだ

乙女肌御直段表

人造麝香

乙女肌

一貝　定價　金二十錢

一函　金拾五錢

付箋看板一枚呈

注文一回一名一箱以上

右ノ外尚多數ノ御注文ニ對シテハ特別御相談仕ル

特別引法

三箱以上　二十六錢

五箱以上　二十五錢

十箱以上　全二十三錢

發賣元　東京橋山町二丁目

田中花王堂

○特製　小間物問屋　名古屋

於て勉强賣出仕候間御便宜御取引先へ御注文ノ程奉願上候

鵞の囀

第十七回　一瓢子稿

兵藏ハ老僧を見て怒鳴に、兵「然らバ侮意に甘べてハ縁の端を拜借いたしませうと敷を小庭の書院に廻れバ老僧ハ出でゝ座に請じ、老「秋の末冬の初めと申すと兎角時雨勝て侮道中のお方は折ふお困りなさいます同ふの雲間が切て居りますから程なく止むで侮坐いませう先づ侮もるりと遊ばせと心の花香汲んで出す茶を呑ばして、兵「生憎の雨に思ひも寄らず飛だ侮厄介に預かりまを決しておかまひ下さるな、老「イヤれ介意アすのでハ侮坐らん斯樣な處に世を捨てゝ念佛三昧に日を暮す斗り放世間の樣子は一向に分らず佛より外に友もなければ旅のお方とお見受けすると何となく懇しう思れますと云ひつゝ兵藏をつく〳〵見て、老「失禮ながら貴方樣ハ左して侮遠國のお方とも見えず何れから何れへお越なされますか此度が初めてのお旅でハ侮坐りますまい、兵「左樣で侮坐います手前は元鄙州山崎表に住居致して居りましたが仔細あつて浜

の身となり只今でハ旅から旅を吟行つて居ります、老「ハ、ア左樣でいらッしやるか夫でハ定めし種〻な面白い奇らしいお咄しも侮坐いませうなどお聞ひ度存ます、兵「別に面白いといふ事も侮坐いませんが先頃故あつて相州大磯へ罷越し手前の家來筋の者の娘を播州有馬迄送り屆くる途中字津の谷峠に於て山賊共に脅かされ預かり者の其娘を搖攫はれて大難儀を致した事が侮坐いました、老「夫ハ〳〵飛だ侮災難で夫から何うあいました、兵「私しも一時遂方に呉れましたが拐置く國にも參らず左りとて上へ訴へて酬儀を願ふも手間取れる事と存じ自身山賊共の樣家へ押寄せ其頭領を始めとして地兒の

擊でハ侮坐いませなんだか、兵「左樣五十五六と見ました、聞くより老僧は指を屈し、老「テ見ると那奴に相違ない私くしが以前播州姫路より此都へ上りました時一人の女性が四五名の惡武士の爲に難儀致して居る處を救て遣つた事が侮坐いましたか其一人が偖か石垣壓藏とやらアました中〻惡い奴で多分其人物かも知れません、兵「ハア然らば侮僧ハ以前は武家でいらつしやいましたか功成り名遂て身退ぞき那る處へ侮閑居遊ばすとは お床しい事で侮坐います、老「イヤモウ何とも耻入た次第で人生五十の定命を何一つ仕來りませう事なしの念佛三昧刀の下緒を珠數に代へて佛いぢりを事と致すも我昔所造の惡業を滅はし一つには比其身の因緣に依つて空しく泉下の鬼となつたる、知己の人〻の菩提の爲め此處に果敢なき庵を結んで僅かに餘命を保つて居る丈の事で侮坐います、卑下する程猶奥床しく所も何人の成れの果とや知らず欲しさに兵藏は傍への佛壇を見て見角れバ五器に盛たる樒の葉は露霜を添へて清らかに香爐に焚ける線香の煙りは梵字の形ちをなして一念の感應等閑ならず本尊に戸帳を掛けたれバ如何なる佛の座もやらん打ち見れハ知難きも其前に供へし一つの器悲よしげに見えたれバ何品ならんと我知らず首差伸べて篤と見るに是なん一個の香合の蓋にて黒塗に紅葉の蒔繪したるゝと奇らしき品なれば兵藏弗と心付き、兵「附かぬ事のれ尋ねなれど那に見ゆるゝ香合の蓋の樣に思はれませが那を何として佛壇へと云ふ終らず老僧はサテ〳〵貴公のお眼の早さ侮不審に思ふハ尤も那に就て一條の物語り此身の懺悔にれ咄しやさう尋聞の花の庭に入り線香の日の影と踏む若れ凡夫心に擊られて煩惱の闇に迷ふ者ハなけれど其處が常人の淺猿しき法相素より目に見えねば多くは二個白道の案内を誤まり身を樂欲の淵に拾るもの幾人と數知れず愚僧も今より二昔し程以前姫路より此地へ參つた時最前お咄しした女性と思はぬ事より懇意になり密かに二世の契を結び逢ふ瀬の數も重ねるうち播州の父大病といふ早飛脚に急立てられ別れともなき袂を分ち愚僧ハ其處播州へ歸る其別れに臨んで愚僧ハ汝は割笄、那方よりは是なる香合の蓋又逢ふ迄の片身にと取交したが一世の別れ愚僧ハ他家の養子となり年經て再び京に上り女性の所在を尋ねた處那方は先に懐胎し伯母諸共に貴公と同國の山崎表へ立歸り一子を分娩したる後間もなく病死したといふ人の咄しに詮方なく是なる片身を亡妻と見て朝夕回向を致して居ますと難有かんを語ると聞き兵藏ハ我を忘れて膝押前め、兵「サテ〳〵館くも似たる咄しもあるものかなお試みにれ尋ねすんが侮僧は若や在俗の名を櫻井源之丞とは仰せられ比致しませぬか、老「如何にも仰せの通り愚僧の元の俗名を御存とあるは其處許ハ是も思はずとにとり出づ、兵「お尋ねなくとも私しより申上ねバならぬ事何を隠さう私こそ貴公の幹の源二郎で御坐います只今仰せの割笄と香合は肌身離さず所持致して居ります試みに合はして見ませうと取出したる二品の一品是にと那の蓋を合はせば合ひし親子の緣盡ぬ咄しは夜も猶足るまじ

＋　＋　＋　＋　＋　＋

▲貸家の拂底　これも國力膨脹の一兆にやあらん兩三年前より昨年の今頃までは到る處に貸家の張札あるを見受けたりしに昨年末より本年にかけて行覺骨を築めての一時間に合せの建築筍の如く現れ出るにも拘はらず貸家の拂底いよ〳〵甚だしく延喜を憚りての斜めの張紙の糊の跡さへ消えて差配の挨拶自ら大風に地代の直上げ、家賃の騰貴、類々と行はれ今は門前に荷車を置きて臺所の道具一二を取片附け居れば「此方樣でハ何地へか御引越なされますか若し貸家なれば三間が五間でも宜しうございますから是非御相談を願ひたう存じますオヤ〳〵もう御約束濟で入らッしやいますか少〻の手附金位なら私方より辨償致しますから六間の處を六圓五十錢にして私方へ御貸し下さる譯には參りませぬかい」と牡丹餅で頬邊を叩く如き背擊をくらはしての相談に慾の目のなき家主の煩惱心を動かしてこがために圖らざる迷惑を蒙るの悲からず貸家の如きに至りては更に甚だしきものあり亜覚戰後の好景氣につれて一般に生活上の贅澤を楽しむる結果と此年末年始に際してひどせうけせんとの新世帯持、遠征者の歸京、代議士の上京、鈴道屋の事務所設立等一時に合した爲めにちらと云ふ

▲はき物

（日本新報に續る）

はきものと云へば靴もあり下駄もあれば雪駄もあれと取敢ず下駄に就て流行の變遷及び種類賞行等を掲げんに太古の事は イザ知らず我國にて中古に至り始めて下駄と稱するはきものゝ行はれしは元祿天正の頃と聞けども之は詳かならず兎に角に素足にても歩行には差支なきものを殊更に木片に穴を穿ちて鼻緒とすげ之に指を掛けて足の先にあしだを履かせるに至りては餘程の贅澤より出でたるものにて其流行も亦贅澤より起ること多きは今も昔も其趣きに變りある可からず文政の頃花の都にばきものにて流行の風を吹かせしは吉原下駄として杉板を鋸引のまゝなる角臺に觀の歯をすげ笛の皮にて造作もなく捻たるばらをを緒にして曉の鴉を恨みつゝ袂を絞る雨の日に大門をくゞり出れば我こそ浦原歯ありでござると云はぬ許りに打て代つて天下晴れての屋さこなし樣芝らしくて小氣味よければ我も彼もと雨夜を待ちてのくるわ通ひ多かりしとか其價は値に四十八文、之より漸次流行して市中の往來にも江戸ッ子と稱するいさみ肌の連中は大概之を用ふるに至れり此際雨を凌ぐに用ふる傘は日方張者と唱へて古き骨に紙を張れとも油を注がず單に大根の蠟にて濡らし乾かしたるに過ぎざれば强雨の際には破るゝことある等長道の用には立ち難く其日限りに棄てたるものありと云ふ其價は八十文、次に流行せしは道島形とて大坂堂島にて風初めたるより某名起り大坂より上りたるものより漸次に江戸市中に於ける普通商人の間に用ひられ頗る上等にて南部表を附け鼠色の鹿皮を鼻緒に用ふる等其價一貫貳百五十文内外に亘り今の道島形に大差なけれども其臺無器用にして堀り（駒下駄の裏をとりたる中を云ふ）の如きも鋸引のまゝなれば見惡くけれども其當時は贅澤の隨一として閉之鼻緒は鹿皮の皮色（俗に鐵御納戸と稱するもの）日表、鼠色及び八幡黑の四通に止りたるものなれども追ひ其價の騰貴するに從て後には紙にて製し伊勢紙を用ひたるは其價五十文位なるを又〻改良して坪屋紙を用ひ其價百五十文に過ぐるものあり其心（鼻緒の中を通したるもの）には麻繩を用ひたれども當時印傳萬力と稱して總皮にて製し心を用ひざるため却て丈夫にて婦用向なれば一時大に流行したりとなん其價百五十文、之と同時に普通内儀向に流行せしは小櫻塗の日和下駄にて杉臺に歯を入れ表は漆にて塗り裏は只黑く臺にて染めたるものに黑の綿天若くは黑の本天の緒にしたり當時婦人向の鼻緒は此二種に限りたるものゝ如し

天保より嘉永年間に亘りて流行したるは助六下駄にて先代の市川海老藏始めて五人男を演じたる時下駄の種類中最も古きものにて思ひ附きの品を尋ね引柾とて角の柾を今の薩摩下駄より少し低き形に鋸引のまゝなるを用ひ助六の評判を受けしより一般に流行して江戸ッ子連中は之に八幡黑の太〻したる鼻緒をすげたるを好まて一は鄙下に全盛を極たり次は東下駄にて南部俵を附け本天の黑の鼻緒をすげ臺は多く白木を用ひたり南部表にも種〻ありて本南部は南部の人東京に來り諸方の振合を見極め精を擇んで製したるものなれども地南部は南部人が農業の片手間に製したるもの多れば隨て粗造なるもの多し當時用ひたるはこの粗造なる地南部表なりとの東下駄は今日は此に物織を着たる藝妓の都下に跋扈する際流行したるものなりとか次は半四郎下駄にて高さ二寸三分なれども東下駄に比すれば下駄表なる堀等も一層改良して徒に形の美を求めたるのみならず成る可く臺の重量を減じて履くに便利ならしめたるもの先代岩井半四郎初めて之を用ひたるより其名起り藝妓若くは通人社會に流行したり此間に御召下駄と稱する一種風替りの品老人醫師等の間に行はれたれども餘り高尚過ぎて永く流行せず慶應より明治の初年に至りては其品類頗る改良して精撰したるもの多し其中に御免下駄とて今の草履下駄の樣のものにて高さ一寸二三分、臺は松にて表を附け鼻緒は鼠の小倉太さをすげ用ひたるが流行せり右は當藝士通行の際他の下駄にては下座せざるを得ざる譯合なれども此下駄に限りて其僅か居るを許されたるより藩士中に專ら流行せり

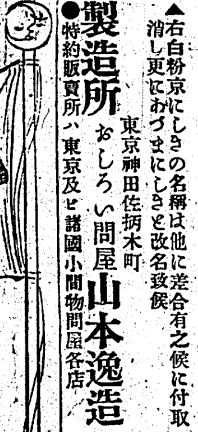
（未完）

▲右白粉京にしきの名稱は他に差合有之候に付取消し更にあづまにしきと改名致候

東京神田佐柄木町

製造所　おしろい問屋　山本逸造

●特約販賣所ハ東京及ヒ諸國小間物問屋各店



花王白粉

定價　小瓶四錢　中瓶六錢　大瓶八錢　新大瓶拾三錢　極大瓶二拾錢　別大瓶卅五錢

製造發賣本舗　東京日本橋區横山町二丁目　脇田盛眞堂

◎販賣所ハ全國至ル所ノ賣藥店小間物店ニ有リ

定價　大　五錢　小　二錢

近世無比

關西特約大販賣

土州高知番摩屋町　井上作太郎

牡丹香の功能は能書に委敷しるす

化粧品　石鹸問屋

東京日本橋區通旅町五番地　山田篤三謹製

▲▲▲無代價進呈▼▼▼

●全國各地至ル所ニ取次アリ

東京市日本橋區横花町廿七番地　五溪堂

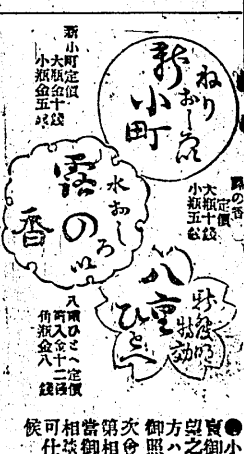
▲▲▲美麗水晶香桐箱入

おしろい

改正

東京市日本橋區通油町十四番地　水晶散本舗　三好堂

本御申越次第直に送呈可仕候



●小寶御望之方ハ御照會次第相當御相談可仕候

石鹸の衛生上關係並に製造法に就て丹波敬三氏の講演（承前）

（東洋學藝雜誌第百七十九號續）

（此詞前号より續く）市中で販賣して居りますものゝ何故廉いかと云ふに、炭酸曹達を澤山に製造して居りますから所がありますと、其處では炭酸曹達を製造した殘滓、即ち炭酸曹達として賣事の出來ない惡いものから苛性那篤倫をこしらへます、殆ど價のない原料から拵へる苛性那篤倫でありますから大變に廉く賣る事が出來る、若し石鹸製造所で拵へるとすれば、價の高い炭酸曹達を買入て之から拵へるのですから手間代を費した上に原料に高い代價を拂はなければならない、それゆゑ出來上つても大變高くつきます、ですから石鹸製造所では苛性那篤倫を自分で拵へませぬ、扨て此苛性那篤倫を用ひて石鹸を造りますには丁度脂肪の百分に對して苛性那篤倫十四分位の割合にします（此處に器械圖を以て脂肪と亞爾加里を入れて一番煮を爲す二三の話しあれども略す）

石鹸を拵へます時に、脂肪の中に亞爾加里を一度に加ると分て入るとの兩方があります、例へゞ脂肪百分に那篤倫が十四分なれゞ、それだけを一度に入て仕舞ふ法と、二度か三度に亞爾加里を分て入る法と兩法あります是ゞ製造家の熟練に依まして色〻にして居ります、けれども初めから亞爾加里を拵入て置た方が脂肪が速く石鹸に出來る樣になるだらうと云ふ考へのもありませうが、それ丈に問題で初から亞爾加里を入て置ました處で、石鹸が速く出來ると云ふ事は決してない速く出來ないのみあらず却て脂肪が充分に石鹸にならぬかも知れない、何故ならゞ一部分が石鹸にありますして亞爾加里が殘つて居つて固まる事は固りますが分解して居らぬ脂肪の混つた石鹸が出來る、其石鹸を割て見ますと中に脂肪が殘つて居る、それで煮上の終りに至て餘程を強く與へなければならぬと云ふ事がありますから直火でするならば亞爾加里を一度に入ないで是だけ入ると云ふ分量を分て置て、二度か三度に入た方が結果がよい、扨て其一番煮が充分出來上つたか出來上らないかと云ふ爲には其出來た石鹸屋を二三滴取て硝子の板に落して見る、さうすると充分煮て石鹸に成て仕舞ふには透明で丁度加里石鹸のやうに透き通て見へる、而し充分煮て仕舞た時は尚て不透明になつて充分石鹸になつて居ります、それゆゑ不透明にならずに居る間は未だ充分石鹸になつて居らぬ証據ゆゑもつと煮なければならぬ、それで煮て來て不透明になる樣ならゞ一番煮は最早すッかり出來たのであります

一番煮が出來上たならゞ次に鹽析法を行ひます、若し那篤倫石鹸でわれば煮て出來た石鹸屋を溶して其中に食鹽を加へます、さうすると脂肪酸那篤倫談乃ち石鹸が溶液から分離して來ます此食鹽を入ますはどう云ふ目的かと云ふに、食鹽を入ますと石鹸の中に含で居ります所の水を取て水と石鹸を分て仕舞ます、食鹽を入て鹽析法を行ひませんでも固る事は固りますが水を澤山含だ石鹸が出來ます、處で鹽の入れ加減に依て水を餘計取て出來る、斯の如く食鹽を入ますと石鹸だけが上に分て來て水は食鹽の方に取れて下の方に沈で仕舞ふ、浮んで居る少し計り水を含だ石鹸だけを集る此事を鹽析法と申ます、而し水を餘計に含ますと思ゞ亞爾加里に水を加て極薄い液を拵ると今度の前と反對で、亞爾加里の中に含だ水と石鹸に與るから石鹸は大變水を含だものが出來る鹽析法が出來ねならば、今度は仕上煮といふのを行ひます、仕上煮と云ふのゝ前にお話申た樣にして出來ました所の石鹸を取て之に水を多く含せたり又は水を餘計に含あいものを拵へる前に一旦鹽析法を行ひ水を含ない石鹸だけを取て、今度は亞爾加里と食鹽の溶液を入て水をどの位含ますか水を餘計にして形の大きいものにしやうとか、水の少いものにしやうとか例之ば此處に花王石鹸とか舶來の石鹸とか云ふ樣な大變堅い石鹸を拵へるとか、或は洗濯に使ひます柔かな石鹸を拵へるとか云ふのは皆仕上煮の時の食鹽と亞爾加里の加減次第で出來ます、斯樣に煮まして今度上に分て來た石鹸を大きな函か或は鑄型の中に入て八日程置と固つて仕舞、上に人が乘ても凹まない位に固くなつて仕舞ます

其他石鹸の種類、化粧用に使ひます石鹸等の製造法に就て話し仕度とおもひますが、豫定の時間が盡て仕舞ましたから今晩は是だけにして置ます、して後日、時があります事したら其他の石鹸の種類に就てお話しもる事に致しませう（畢）

○廣告

丸善商店發賣品廣告

婦人小間物　粧飾用品　携帶用品　**各種**

高等優美　彫刻蒔繪　**御櫛笄簪類各種**

推朱彫　新意匠　**蓮彫御櫛笄簪玉**

高尚美麗　御懷中紅　**小町かゞみ**　新意匠五品　特製發賣

金。銀。モール。寶玉。光石。組物。帝物。糸物。絹。綿。糸。紙。縮緬。紬子。綾絹

新形花簪根掛手拭類

雲井織　一名　**改良鹿の子**

改良蠟引紙壽賀　無地段各十二種以上五箱　見本業呈　特製　蠟引ゴム壽賀

外四回内國勸業博覽會進歩賞セルロイド各色。透明。板。管。筒用。器械用。生地

ゴム櫛笄根掛花簪類

御白粉。歯磨。化粧下。石鹸。香水。香油。香水。包袋。諸家精製化粧品類各種

諸化粧品類特約發賣

登録商標　**花の君御白粉**　函入紙包　水製煉製

登録商標　**花の君石鹸**　高尚石鹸函付　一箱金廿五錢

東京橋町四丁目　丸善　丸見屋　三輪善兵衛

◎莫大小製造卸禀告◎

小間物屋さん仲間へは特別に勤て賣升

肌著　靴下　各種　手袋　品々

東京市日本橋區横山町三丁目八番地
莫大小製造卸問屋　**鈴木卯兵衛**

獨乙國ドクトル、フリッツエイ先生傳授
透明石鹸販賣御披露

仰る弊舗謹製の透明石鹸は世間在來の石鹸と異なり彼の前帝國大學教授獨乙國ドクトル、フリッツエイ先生の直傳を襲ひ一大秘法を發見し其高尚優美なる明致し論寒暑の變動を積み多年の實驗を

TRANSPARENT EXPORT TOILET SOAP

商標

謹言

進行舍　可兒鏡三郎

本所區若宮町八十二番地

●弊舗製造品ハ何品ニ係ラズ右商標ヲ付シ有之候間不相變御愛顧ヲ願ヒ候也

●近來弊舗類似ノ商標及候ヲ付シ紛製品ヲ販賣スル商有之趣キ聞ク御賞求ノ節右商標ヲ御賞求ノ上御注意

追て弊舗製品ハ何品ニ係ラズ右商標ヲ付シ有之候

謹言

左の付度候也

候敬白

●井伊直人（下）

田邊大龍講演
村次郎速記

双方共に充分の身構へ。ヤッと互ひに氣合を入れたが。打込み來つた直人の木劍。稍暫らく打合て居る。おさだは一足踏込んで直人の木劍を打落す。これはと驚く内股へ薙刀の穂先をさし込み。一跳はねれば何ぞ堪らん。さながら屏風を倒せし如く仰向にこそ倒れたり。起上らんとなしたる首筋を薙刀を以て確と押へさ「如何でございます。是にても女の武藝は役に立ませぬか。兼ての御約束以來武藝を御出精あそばせ。先代直人殿に代り御教訓申あげまする。是にても恥たまはぬか如何に〜と押つける。直「恐れ入た參つた〜。充分に骨身にこたへた免せ〜。さだ「左樣ならば御修行あそばせ。直「致す〜。お眞は薙刀を取て傍らへ差置き取出したる金子十兩。夫の前へさし置て。是は路用の金子妾の腕前に立勝らば當家へお入れアす。左もなき時は足踏み御無用……直人い無念におもへど詮方なく。悄〻支度をして居ると「ヤア旦那樣今の中がお肝要。早く修行をなすつて御新造樣に負けないやうになさいまし。と下男にまでも嘲弄され。流石直人も武士も名殘惜しく思へども。武藝修行の趣きをお上へ願ひ三年の間御暇を取り江戸表へ罷出で。木挽町の柳生家へ到り飛彈守へ御目通りを願ひ。女房おさだに打負し事逐一明白に物語りて門人の内に加はる。飛彈守い直人の潔白なる一言に感心なして。自ら手を取て三年の間教授致される。直人も晝夜寢食を忘るゝばかり一心不亂に相成て勉強なし。今では人も驚き我も許を與許せでも受て。是ならば大丈夫と國表平片町の角屋敷へ來つて見れば。以前に變る立派の邸宅。ハテナ生れ變つたやうな此体裁。屋敷替にでもなつたのか知らん。三年間の音信不通合点が行かぬと佇んで居る處へ。下僕重助。「ヤア是は旦那樣いつお戻りになりました。サ〜〜以前は大層に奇麗でおつたが。色が黑く成る髮も蓬くとして生れ變つたやうになんなさつた。重助は是は矢張拙者の屋敷か。「エー〜仰しやる通り。貴郎さへ居なさやア此通り奇麗になつて居るものを。又荒さうと思つてお歸りになりましたか。御新造樣に勝うと思つてもさう旨くは行きません。御新造樣に貴郎がお出になつた其日から。一生懸命に御修行遊ばして居らッしやいます。「餘計な事をサ。主人へ向つて無禮な奴。と玄關へ上り。「コレ眞。直人只今戻つたぞ。早く濯ぎを是へ持てさ「これは〜能うこそお戻り。「委細は跡にて物語る早く濯ぎをさ「イエ〜濯ぎにも及びますまい。兼ての御約束庭前へお廻り遊ばせ。試合を致した其上にてお勝あそばせ。お上げアさん。左もなき時はお上アす譯には參りません。「真己れ憎い〻言。三年以前とは大いに相違。柳生家にての修行の腕前イテ見せつけ呉んと。といふ申切戸を開いて庭前へ通し。おさだは甲斐〻しく支度を致し薙刀を取て進み出で。直人に木劍を持たせ。直人も充分支度をなし左右へ開いて身構へ。ヤッと互ひに白眼合ひしが。風を卷て打込む木劍薙刀を取て受流したるお眞の腕前。三年以前とは大いに相違。恐ろしきばかりの上達。腹立ちに成れた直人の隙を伺つてヤット叫ぶ。一旦直人木劍を卷落され二足三足下る處を。薙刀を〻首にあてがひ。一はね刎られ倒れる處を首節にあてがつて。「如何に貴郎是にても柳生の御家の御修行でございますか。餘りといへば情けなし。兼ての約束今一度御修行を遊ばせ。路用の金子をれ惠みアさんと二十五兩さし出した。茫然とした直人。「恐れ入た三年目にて立歸りし拙者。身体の勞れもあり今夜の一泊だけを願むさ「決して相成ません。早や〜御出立を遊ばせ。貴郎は武士でい御坐いませんか。女房に負けて何の顏さげて世間へ出られませう。「イヤモシ旦那樣當分は駄目だね。早く行つせへ。今度い十年も歸つて來ねへ方が宜いや。と云はれ是非なく直人は其儘に江戸表へ立出をいたし。跡にてお眞は今三年の追願を致し。直人い柳生の屋敷へ來つて面目なげに。右の次第を飛彈守へ申上ると。飛彈守もお笑ひなされ。遜れなる賢女世に珍らしい事である。此末は飽まで手前が敬へ遣はせと。以前に勝つた厚さお稽古。直人も實に殘念と心得るから急〻修行に怠りなく。二ヶ年目に極意皆傳になり。モウ是ならば大丈夫と飛彈守より お免しを蒙むり。立戻つたる玄關先。「頼む。「ドーレ。と立出た重助。「是は旦那樣又打れにこさつたか。「イヤ。眞に申して庭前へ出せ。「畏まりました。と夫からおさだが出て庭前に勝負を致した處。稍一時ばかりの間打合ひましたが。飛彈守のお目鏡通りやう〜直人の勝利になり。此時おさだは自身に夫の足を洗ひ。手を取て坐敷へ通し上座へ直して兩手をつかへ。「さて永らくの間。心にもかさ失禮を申上げ誠に恐れ入りまして御坐いますが。是も御家の爲めを思ひ切る次第に及びました。何卒御勘弁下さりますやう。と云はれて直人い夢の覺めたる心地して。お眞の手を取り押戴き。「如何に貴女あらざれば我い生涯人に後ゐ指さされる處。汝の賜物にて。つて奇發心を起し。先祖の家名を汚さるい父母が汝の身体へ乘移りて御教訓を賜りしか。〻、忝けなしと喜んで。歸國の御屆けを御前を初め重役へ申上る。殿い此事を聞し召され御前へお召とな つて。夫婦一場の手合せを致させた處。實にや優らず劣らず。龍怒つて雲を起し虎嘯ひて深山に肉を爭ふばかりの立合。殊の外御賞美に與かり。即日三百石の御加增にて仙台のお家に鬼の夫婦と名づけられました。是れ直人が忍耐によるといひへども。一つい妻女の賢なるに依る處で御坐います。

第四回内國勸業博覽會受賞

雲井織

一名 政良廉の子

御婦人用（花元結手拭 ゆ半ゑり地 帶かは帶揚 金入り 金なし）

織元 京都 坂根兄弟商會

製造販賣（元京都烏丸六角下ル） 江州川並 外村新五郎 加納作之助

この雲井織と稱するは弊店が多年の經驗と幾多の苦辛とを積み漸やく茲に發明製造せし前代未曾有の織物にして今其体裁と効用の大略を述べんに該品は從來に於ける一三浦絞の類なれ共器械を以て縮たるに非ず又絞りたるにも非ず即ち一種の新發明に依て頗る叮嚀に之を織成し之を洗ふ時は（再び油染し或は汚れたり共）清水にて之を洗ふ時は（再び元の美麗に立戻るのみなら）絲染料共に充分其精を撰びつくして幾度洗ふとも（決して）地質を損し又い伸縮變色等の憂ひは決して之なく（殊に）價格も廉にして（猶且其色合も）季節向何れ（の道にも通ひ）御好み次第に之ひ流行（何卒一度御試用の上陳織御注文の程伏而奉願候）

日本橋區橘町四丁目

東京發賣元丸見屋善兵衛

日本橋區横山町一丁目

特約大販賣 天野源七

日本橋區横山町二丁目

特約大販賣 森本支店

特約東京小間物問屋各店

其他全國到る處の小間物店呉服店に販賣仕候

○廣告

江川商廛賣品廣告

○鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
○舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
○舶來最上人造ゴム無地鼈甲ばらゝ各種
○舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國并ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々相撰廉價ヲ以テ販賣仕猶一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地

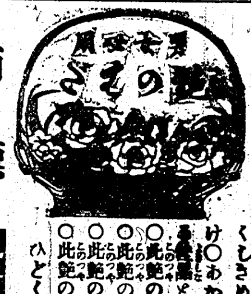
東京 EDOWA KINEMON

發賣本舗 上總屋 江川金右衛門
小間物問屋 同町十四番地 同 支店
(電話千六百十九番)

天下無比衛生的顔料優等化粧品
芳香馥郁白美艶麗頗有効靈妙奇劑

製造發賣
東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地
東京莊園堂 齋藤泰助

金六十二錢　金三十二錢　金五十錢
水白粉價 金十錢
白粉價 金廿錢



登録
商標

各種石鹸及化粧品問屋 山田篤三謹製

抑も此艶のはだへ未國にて專ら行はるゝ佳品にして常に是を用ゆれば色を白くしきめをこまかにして艶を能くし第一にきび○ぞばかす○あせず○しもやけ○あかぎれ等には顧る妙効あり故にあれしようの方は片時も欠くべからざる美顔と云ふべきなり

○此艶のはだは生来工女の業には必用の品なれば能く此廣告を御注目われ

○此艶のはだへ第一水虫等絶て手足を洗水にひたす爲に生ずる腐物又荒敗に善

○此艶のはだを適宜にて平へ取分ひゞ、しもやけ、あかぎれ等に能塗附べし

○此艶のはだは御用の餘れかんざしのみゝかきにて二はいより三はいとす尤も

ひとくあれしようの方には適宜御用あるとも害なし委敷は能書に記す

東京市日本橋區通塩町五番地

商標
登録

世界無二衛生御齒磨玉蘭の儀は既ゑ江湖諸君の御了知の通齒磨種類千戸千種中弊堂等品他に曾て在らざる良品也猶改良に改良を加ヘ口内に奇功ある良藥を加味して口内一切の患を除き齒質を強壯にし齒を堅固になす耶等奇功愛に盡し難し詳細は本能書に譲る御採用御愛顧奉願上候

○東京市諸縣下有名小間物店洋物商に賣捌特約有之候間冷もよりにて御需用願上候

製造本舗 吉
東京日本橋區小網町弐丁目鍛橋
伊勢屋吉三郎製

▲昨今の金融　之を銀行に就て聞けば暫く資金の回收を專一とし貸出しを引締めし爲に今は金庫に餘裕あり確實なる擔保さへあれば貸さんとすれど寧ろ借人なしと云ふものあり之を商人に就て聞ば公債を擔保に貸らんともるも尚は融通を辞る銀行多くして金融は中〻に緩さすと云ふものあり幾分か緩さたるが如く依然締まれるが如く判斷に苦しむものは昨今の金融なり蓋し昨今は一般に資金の需用多き時にあらず信用ある商家或は資本裕かなる銀行は金融頗忙なるべき筈なく至て平穩なれども今日迄で引續き失敗を重ねたる投機商、表面投機商ならざるも株券に食傷したる銀行者及び紳商の如き我は矢廻に會社を製造して浮世を綱渡りしたる似非紳士の如き擔保の株券は下落して頭金を請求せられ金利は益引締りて利足の拂ひは愈增加し所有の株券は隨分賣出たれども尚は容易に損耗の穴は埋らずして辛ふして世間向きの體面を維持し只管機式腦貫の機會を待てとの擬ょり牡丹餅の好機會は來らずして却て新設及增資したる會社株金の拂込は遠慮なく切迫し來り手形の融通は固より利かず比較的不確實の擔保に融通する程の銀行は貸出すべき裕金なく餘裕ある銀行に借んとするには確實なる擔保品なく是に於てか金融は依然締れりと云ふもの比〻皆然るが如し故に金融の根原たる日本銀行は至て平穩無事にして日本銀行に次ぐ大銀行も亦漸〻資金の餘裕を生じたるに拘らず是れは貸過ぎたる銀行及び信用薄き銀行へは依然警戒を解かずして自衛に汲〻たる程なれば株式市場の如きは容易に金融引緩みの聲を耳にするに至らざるべしと云ふ

▲御兼題詠進の和歌　宮中御月並十一月の御兼題に基き詠進の和歌は左の如くなりしと

御兼題　金瑞勳章

みいくさにたてしいさをのしるしこそ
やかても國の光なりけれ　正凰

國のためいのちをしまぬ武士の
いさをにしるし玉のしるしに　承昭

たくひなきいさをゝたてし武士の
黄金のしるし上にそかゝやく　光尊

こかねもてつくれる玉に外國に
かちしいさをのしるしなりけり　忠敬

武士のむねにかけたるしるしにて
國につくしいさをゝそしる　長延

劔たちよにぬけいてし武士の
いさをのむねにかゝやきにけり　量弘

たくひなきいさをのしるし身に添て
つかふる道に進むますらを　愛子

皇國のひかりもてひていくさ人
こかねのしるし身をてらすなり　任子

軍人かけしこかねのとひのはゝ
みくにをてらすひかりなりけり　文子

いくさ人たてしいさをのしるしこそ
黄金にまさる光なりけれ　祥子

いくさ人いさをのしるし胸にかけて
君のみいつを仰くみよかな　範子

こかねにもまさる寶はいくさ人
たてしいさをのしるしなりけり　良子

軍人たてしいさをのいちしろく
かゝやくみよにあひにける哉　敦子

身をすてゝたてしいさをも軍人
かくるしるしにあらはれにけり　道子

たかくとゝとりのしるしは軍人
こかねにまさるたからなりけり　いと子

たゝしなきはみ軍もをさまりて
いさをのしるし仰くみよかな　三枝

たてしいさをのひかりなりけり　眞頼

其いさを高くかゝりし印しこそ
こかねのとひにあらはれにけれ　正臣

もろこしの空にかけりしますらをは
黄金の玉にあらはれにけり　桑有

ものゝふのいさををますゝ輝くは
黄金のとひのひかりなりけり　鋼二

むねもせにかけし中にもまはもき
黄金の玉のしるしなりけり　正夫

かゝやはるとひの印しにみゆる哉
高くのぼりし國のくらゐも　胤明

よに高きいさををみゆる軍人
胸にかゝやくとひのしるしに　英一

特約販賣　東京小間物問屋各店

煙　入錢。拾錢。廿錢。特別製　卅五錢
水　入錢。十五錢。同　卅五錢

○此うら梅おしろゐは眞正無鉛毒製にしてつきよくのりよくはけをちる事なし又硫黄溫泉臭氣ある所に入るも決して變色する事なし

嗜用人　新駒屋　中村福助
發賣元　日本橋小網町二丁目鎧橋通　赤心堂
發賣代理店　東京横山町二丁目　田中花王堂
特約大販賣店　京橋區銀座三丁目　松澤八右衛門
日本橋區瀬戸物町　玉置金八
大坂南區戎橋北詰　山中商店

反古志よべ

作者不詳

▲主從日用條目

一凡そ一軒の主たる身は親より譲りの家業を大切に守り餘の商賣をうらやむべからざる事

一日ゝ帳面をあらため商ひの多少金銀の出入を見るべき事

一奉公人の働き振精を出さと鈍きとを見わけ鈍き者ハ時々詞和らかにれしへ勵すべき事

一質素倹約を守り美服ハ勿論高價の品無用の事

一日ゝの野菜我ハ美食を好み奉公人には粗菜を喰しむる事あるべからざる事

一附合一家中の義理順義をかくべからざる事

一倹約を言立客嗇を專とし己一分の利を計り他人のいたみを顧みざる樣の事あるべからざる事

一奉公人の爭ひ兩方を聞糺し依怙贔負すまじき事

一商ひに高利を貪らず物を買しめ方正路を守り不實あるべからざる事

一奉公人及び出入方の者は相應の慈悲憐みあるべき事

一先祖の年忌法事丁寧に勤め善根をなすべき事

右の外種ゝ心得あるべし世上に主たる人内にては客き事はかり言ひ却て青樓料理屋等にて奢侈榮燿に金銀を費し或ハ奉公人ハに粗味ばかり喰せ其身は厚味を食し或ハ一來親類に無心に來る者あれば泣事はかり言て斷り我に諂ふ無益の者には金銀をかし家業ハ奉公人に振向其身は遊藝遊參等に遊びくらす人多し是等は終に身代を持崩すか又は病身と成て短命なるべし又倹約を吝嗇と心得萬事わる客く人の諺りを耳にもかけず錢金さへ延せとよき事と思ひ一文の錢をも吝み一家所合の義理引をかき人に振舞を受て終に振舞返せし事もなく貸ゞる物ハ厘毛の埃せで取はたり拂ふ錢金は仕かけ不足にし都て無慈悲にて施しといふ事を知らず錢金の番となり有財餓鬼と謗られ一生貧乏人同然に朽果るもわり只過不及なく萬事に氣と賦り家業を大切にし先祖を辱しめず家の長久子孫の榮へをはかるこそ主人たる者の勤めなるべし

▲女房の式目

一都て女房たる身は内をよく治め世帶の入目に費のなき樣萬事倹やかにすべき事

一日ゝの總菜は大抵前日に買ひ調へ其日に成て手支へぬやうにすべき事

但し現金買を重にすべしかりて買ふハ高きものと知るべし

一總菜を下女に養さすともみづから加減を試み辛からず水くさからず能く火を足らし味よくすべき事

一夫我子又は奉公人にても衣服垢染穢れたるは女房の恥なりと心得手ぬぐひ洗濯し見苦しからぬ樣にすべき事

一身を小さつとりと持ち手足の爪を伸さず鬼髮はびぬ樣すべき事

一衣服髮等古道におとなしく分限不相應の形すまじき事

一親類又ハ得意來など來しとき丁寧に挨拶し假にも不興なる顏すまじき事

但しみすゝの追從をひひ又餘り言葉數多からぬやうにあるべし

一他人に向ひ我子の自慢咄しすべからざる事

一奉公人をいたわり仕落ありとも大聲に叱り又は手ずから打擲等ゆめゝすまじき事

一夫の外男と耳語話し又は戯事など決して云ふまじき事

一眞姑を大切にし夫に對し悋氣がましき事慎むべき事

一人中にて物多く食せず酒は平日にても堅く飲まじき事

右の外女房の心得數多あるべし世上の女房の中には夫の事は構はず我身ばかり洗ひみがきし髮端手に結目に立つ衣服を着白粉でくゝ口紅玉虫の如くゝ

諸官省御用　●全國五二會品評會に於て進歩銅牌受領

上油煙なし其保つ時間長く故に經濟上に利益あること在來の燈に比し殆んど二倍強に當る其原料は我國の確實なれバ臭氣なく極めて尤適し殊に美麗なるを以て神佛燈火及婚禮家には

大形五時間中形四時間小形三時間持受合

製造發賣元東京馬喰町二丁目

長瀨富郎

印石蠟は光力非常に廣く長

花王石鹼本舗（九二三）電話

市内は十挺以上配達市外共錢送れ見本郵送也

近來類似あり人印商標長瀨富郎名義に御注意乞

近來世間にさきらわ數類藥澤山できたと依て御客樣の見易き爲め左の商標を相用べ候間御求めの節御注意を乞ふ

商標　見榮堂

弊舗數年來賣弘め來り候此しもやけ根切藥を世間ありふれたる類似品又ハあれ症ひゝ藥などの如き者と同視されて一迷惑千萬御注意御ためし被下度候しもやけ及ひきやけにていたみかゆみ甚たしく手足赤はだにたいれたる難症にても一二貝にて全治す重きも三三貝なれば奇妙請合なりつけて少しもしみいたむ事なく功能速かなる油藥なれば如何なる難症にてもよし殊に一度全治したる所は生涯再發する事なき根切藥也其他水ひし糸かせ毒ひしに奇々妙効あり

定價　大貝　金十錢　中貝　金五錢　小貝　金三錢

東京市日本橋區西中通上槇町（電話千五百〇六番）

●取次所は全國各地藥舗賣藥店小間物店にて販賣致居候

見榮堂　安川榮次郎

本舗製造元

新發賣

製造發賣元

定價（一包金貳錢）一箱（十五包入金拾五錢）十箱以上割引　看板（拾箱一付一枚進呈）

特約大販賣店　横綱町本所　伊勢吉　横山町二丁目　脇田　横山町一丁目　柏善

開通ソリ油町田神外花房町　帝國堂　深川仲町　大與　鋼売町二丁目　井筒堂　深川西森下四丁目　山德　橋町四丁目　丸善　横山町二丁目　花王堂

巢鴨坐　佐々木　本町三丁目　二寶堂　青山北町一丁目　三勇　馬喰町一丁目　三善　馬喰町下谷車坂　萬金守田

右特約店ハ弊店同樣割引仕候間多數御用向奉願上候

けさながら難波めかし、[illegible]者の振を眞似ひ、者咄しどいへど現をぬかして居き、又人さへ見れば近所隣の誘はなし假初にも下女丁稚を叱りめき、夫の歸りが遲くなれば行先を根問し、はや惱氣して面をふくらし氣に好た男が來れば酒よ餅よともてなし氣に入らぬ人にはろく〳〵に詞もかけず、今機嫌が能いかと思へば忽ち不興な顏面し、寄音介といはれ常に夫を尻にしき、商ひ萬事の應對にさして口利き、或は常に酒を呑で狂がはしき事多く、又い物咎みして、欲深さも儘多し、是等は遂に世間の人に愛相をつかされ、夫に去らるゝもありさなくとも家の衰微の基となるべし、只女房たる身は萬を慎み人前にて利口立せず、詞少なに女らしく、夫を重んじ世帶をつゞまやかにしやしらず、高ぶらぬこそ女房たる身のたしなみなるべし　（未完）

▲安永年間の落語（承前）

▲饅金　引越て來た鰥の親仁、大病もさし重りて、三人の子共へ讓金の噂を聞くに、總領息子に金百兩、次男に二百兩、三男に三百兩との事、ハテ替つた讓り金じゃ、總領こそ三百兩で、次男三男は順に少なさうなものじゃが、どうした譯じやよく〳〵聞けば借金を讓るの

▲居風呂　山家の者、江戸へ出て人にすゝめられ、居風呂を買ひ在所へ持歸りける、所の者見た事もなければ見物に來て、あんと能いものでござるかと問へば、なるほどよいものでござれども、沸内が冷たくてこらへにくふ侍る

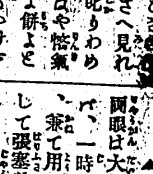
▲用意　同眼は大切あもの、兩方へ土埃などが度ふはいれば、一時に兩眼がわるくなつて其節難儀なべし、兼て用ふるが上と了簡し、左の眼を澁張にして張塞ぎ、もし右の眼のわるく成た時、剝ぎべしとの上分別つゝに、ふと轉ぶ拍子に、竹垣の先に、右の眼を突潰す、扨こそ此時と澁紙を引はがし、左の眼あざやかにして重寶と驚べたり、然るに向ふより侍來かゝり「是は久しぶで侍、意得ました、さゞ〳〵侍別條もござぬかと問はれて、疾とすがめて見「成はゞ侍ゑ、承はつた侍度でござれども、侍仁体を見覺へませぬ

▲三線　貴殿は岡場所好きだが、なるほど當世のとこもかも、吉原はだしなれども、現角三線がないで氣色がさへぬ「そんなら三線のなる家臺へ連て行ふと、やがて同道する「彼の三線はないか「それ子供三線を取て來い「下から三線を子供が引つて來るを見れば裏皮がなし「是見やれ、おれが斯ふでもうと思つた、裏皮がなくて、是が卵るものかと投出す、女郎氣の毒がり「ほんにさつき灯蘭賣が來たに張にやればよかつた

▲番太　番太、根津へあそびに行き、めつたに酒をのむ、女郎いやがりて坐敷を明る、番太もこうはらまぎれ、やたらに酒を銚子の口から飲で衾をたて切り、女郎の明けかねるやうに跡を足にて踏ん張、酒さげんにくつと蹴入る、女郎〳〵能いかげんに遊んで來て、衾を明て見るに、色ゝすれどもあかず「もし〳〵衾をあけておくれ、番太醉の耳に聞つけて「何屋へ通らしやる

▲鶏　鶏　鶏鶏を求めたが、拙者が心に思ふ事を云ひすゝ、夫は珍らしい、近日參り承はらう、或日その客人參られ、彼の鶏〳〵是かと見居たり、亭主なんと侍時分がよからう、近所に名蕎麥が出來た、申遣はさう、來いよ、その名蕎麥を取寄せて、あなたへ上い、長ばなしした「これ八助百がのでよいぞ

繊生最上等新仕佳品



御豆腐用桐西入本製

美顏粉　白延命袋

花美く〳〵くも書りなければ物足らぬ心地はすめり貴婦人今嘗の花の顏いと艶麗なる迄命袋に香ある花なるべし、抑も此の袋の佳なること他に比類は夏の日の往來の袖に見がほり慰さ美いを去れは又生命財産冬の日も豊なる衣へ移り行を寄南に勝る精製衛世に評判も匂ひ强く傳へる延命袋空炷なるも製衛は御求の上知り給はんことを願ふまつるなり

東京市日本橋區本石町三丁目（電話四五四番）
發賣所　とみ屋國彼商座

特約販賣所　東京日本橋區本石町三丁目拾八番地　井上太兵衛
大販賣所　日本橋區馬喰町二丁目三河屋　小田善兵衛
○請賣侍望之諸君ハ右ノ特約店及大販賣所ヨリ侍勝求サレ乞

謹告

小一瓶箱入十錢大一瓶箱入廿錢桐箱一瓶入廿五錢

右は御花主樣各位の御盛力にて非常の販賣高と相成剪五郎丈は不ア及弊堂無限の光榮と奉萬謝候偖て本年中は特約大販賣店より意外なる多數の御注文に接し候に依り尊通御花主樣の御注文に自然應じ兼候場合と相成候間不悪御承引被成下度此段謹告仕候追伸來年度よりは更に御注文奉願候

東京新橋御用白粉梅の香本舗
發賣本舗　伊東鬼外堂　敬白

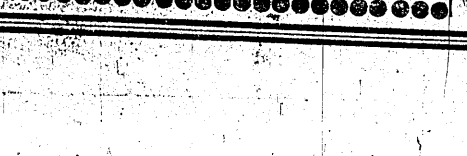
特約大販賣店
銀座二丁目　横山町
日本橋區通町　平尾
江川支店
横山町
田中花王堂
丸見屋
新高町
柏屋
和木屋
羽屋

抑此石鹼は世間在來の物と大に異質なる原料に純性磨香を混和せると以て芳香佳一度用れば皮膚潤ひに色澤を增へ一種得なる匂を含み其爽快なる云ふ斗りなし夙に江湖に其名貴神の高評を博し日一日需用の增加するい實に背かざるを以てなり乞ふ益々御愛顧御試用之程奉願候

定價一個に付
一號　金二十五錢
二號　金十五錢

神戸市鳴行社摩播幸七代店
東京神田區柳原河岸十八號地
小林富次郎

新形
高級金物
精緻小道具
問屋
善
日本橋區通町四番地
九見屋
長谷川久郎



柏葉堂製造之樂器ハ木材品質ノ善良ナルハ偏ニ諸君ノ御贊成ヲ得日增ニ大盛ニ赴キ候益大勉强仕候間多少不拘陸續御注文ヲ奉願候尚ホ茶菓御得意諸大家之御厚情ヲ奉謝候
東京日本橋區藥研堀町十八番地
發賣本舗　高井柏葉堂

餘興

●狂歌

輕氣球

天乙女いかに見るらん羽衣も、からで登れる輕氣球

とふとりの飛鳥井の庭すらねども揚るけすりとみる輕氣球

手をうちてはやしの中を出てより雲の上野にすむ輕氣球

笹雪のくもを渡る風船やからみし糸をよすがにはして

のりてよりみる人皆の氣も空に驚かれぬる輕氣球かな

輕氣球みるに附ても思ふかな登れば下る人の世の中

漢方醫

病家にも甘くみられつ漢方醫　鏡花老人

懐中も温ためられず己がもる　羊羹色の羽織まとうて

唐人参もにはひ失せつゝ　彌生庵

今ゝはや重く用うる人もなし　ぐらむ衡もかゝざる醫師

黒藥のせんじつめたる身代に　雜輿

苦い顔のみする漢方醫　水月

大黄のきゝめも今ゝ薄らぎて　桃の屋

ふのが腹のゐ下す古方家　命厄もやゝ絶ねべきなが業に

乙を投げたる漢方の醫師　秋の屋

▲一口はなし

▲紙屋　本所　大仙亭

入さんれ前何處へ行くのだ「横町の紙屋へ買物に行からと思つて出掛た「さうか」彼處の家も親父の代には紙がよくて大變に勉强したが今では大層品が悪くなつたぢやないか「私しもさう思ふが彼やア洋紙の故だらうよ

▲食客　下谷　阿房生

或家に食客が二名ありました、此家の細君は隨分發明な方なれど至つて吝嗇にて、食客に三度が三度古漬庵ばかりにて喰さします、食客も之を殘念に思つて居りました處、一日庭の花に蝶が戯むれて居るを細君が見まして、梅に鶯、竹に雀、天と地、日と月、なんでも二ツ宛揃ふものだ、と云ひながら、無牡丹に唐獅子、竹に虎かね、と云ひながら、新造さんまだ坐いますか、無牡丹に唐獅子、竹に虎かね、と云ひながら、飯にお菜

▲鯛の片身　青山　養風堂

或湖の邊りに白髮の老翁が一人眞直なる針にて釣を垂れ他事なく樂しみ居りまするに頓て大きやかなる鯛の片身（周）を釣りあげて左のみ喜びもせずに歸り行くから一寸呼び留めて今一度釣を成さちぬかと云へば老翁は振返り見て「イヤ太公ゝ再釣を願みずだと云ひました

○智惠くらべ新題（解答は本紙四頁）

出題者　奈良縣の某

㊀湖の水流れ去て孤獨類を脫す（青物一ツ）

同　青山　松風堂

㊁埋火や○○（身体の内）しのさきを堀て○○（草の名）

㊂田の字形にて縱横の鑛同じ、第一虫に國名、第二文房用品、第三印刷物、第四大工道具、第五鰹人に果物

同　麹町　玩藥小僧

▲同第卅九號の解

㊀鳥居（酉、亥）　㊁刀は（鯖山葵）

㊂キ（氣）が拔けて居て用に足りぬ（皆意）

（三）伊勢四日市岡田庄吉◎不拔參小僧◎勝本下田長之助◎稲井市山花小僧◎大坂南久賀寺町三今井丸（二）武州所澤田中利道◎信州長野運町紙金店員◎常州三浦玉屋店仙太郎◎磐城平大喜屋店小僧◎東海道三島町初泉鄉店員◎上州高崎氣象小僧◎川越南町好本小僧◎伊勢川町須本鉄之助◎上州江戸町東屋店橋屋吉◎上石吉◎問ヶ田橋善生◎秋田縣一南人上市果町潮田店小僧◎廣島由喜情生

●廣告

今般祖父喜兵衛儀死去致候處本組合御一同樣より鄭重なる御吊詞を賜り候のみならず御役員各位より御香料の御贈與に預り候等重ゝ難有奉拜謝候猶廿二日葬送の砌は遠路殊に雨天にも拘らず態々御會葬被成下候段恐縮此事に御座候其際混雜に取紛れ御尊名伺ひ漏も不尠と奉存候間乍略儀當紙上を以て御厚禮申上候敬白

明治廿九年十一月廿五日

日本橋區横山町一丁目

中村喜三郎
中村喜三郎
中村源次郎
中村銀次郎
中村喜一郎
親戚同次郎

全世界齒磨之大元帥

●植物性有効品にして何れも日本藥局法所定の藥品を使用し且配合なしたれば使用後精神恍惚として爽快

●本劑は使用せざる貴重の精品を使用し其驚妙なる奇効眞に豫想外なるべし先一度御用あらんことを

口中

海遠陸征全紀念捷

品質善良天下は冠たる

登録商標カチドキ

一名凱旋はみがき

東京横山二田中花王堂

●猶本品發賣以來日尚淺ニ不拘販路日月ニ隆盛ニ赴シ是全ク品質善良價格低廉ナルノミナラズ御販賣者諸君ノ御引立ト深ク奉鳴謝候然ルニ目下料容器等非常ノ高價ニモ不拘一層品位ノ改良ヲ加ヘ以テ諸君ノ御厚意ニ酬ントス何卒倍倍ノ御愛顧御引立ヲ程奉願候

御賣捌
東京小間物商組合中

瓶入　大箱　小袋
二錢　三錢　五錢

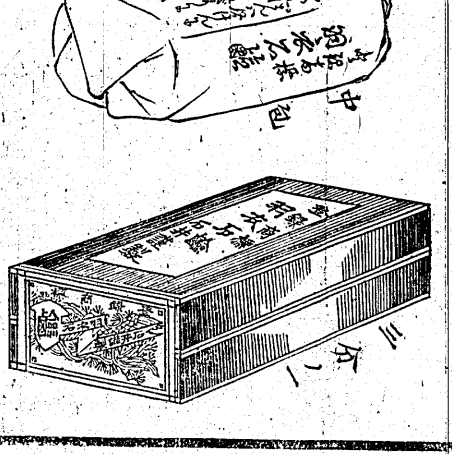
內務省衛生局御試驗濟

陸軍々醫總監　石坂惟寛殿證明
醫科大學第一院撰範藥局試驗主任藥學士　兒島高里殿證明

（衛生化粧）羽衣石鹼

定價　一個十五錢　三個四十錢

紳士淑女御化粧用



製造發賣本舗　石井勇助

特約販賣店

東京市日本橋區小傳馬町三丁目

日本橋區橋町四九見屋善兵衛
同馬喰町一丁目平尾貞平
同喰馬町二丁目同通ル油町
同京橋區南新堀一丁目柳下藤五郎
同銀座一丁目金花堂
同三丁目外山玄太郎
同下谷池の端佐野善兵衛
同銀座二丁目松澤八右衛門
同下谷寺田治兵衛
同岸田／兮香
同米澤町安川榮次郎
同兩國村松町玉置金八
同大坂町高木與兵衛
同元大坂町松本伊兵衛
同石町四三丁目森谷萬次郎
同本石町四丁目岩淵長藏
同瀬戸物町大木口哲

元祖水かろん
あらぎくらら
販賣
各化粧品
小間物店

一等化粧品
元祖水おしろい
若ざくら
東京市神田明神下
大和屋物右衛門製
登録商標

元祖
練りおしろい
ほや櫻
御
同
懐中用
錫器入

今般弊堂製造東ぬか義擴張に付左の所へ工場を設け候に付同所へ轉店仕候間此段御愛顧諸君へ謹告致候也

日本橋區村松町四十八番地
東ぬか製造工場
主　田中辰次郎

●登録商標軍艦はみがき●

TRADE MARK 軍艦 歯磨
東京 大和屋 佐野善衛製

定價
二錢　三錢　五錢　六錢　十錢　十五錢

此齒磨粉は單に齒牙を清潔純白ならしむるの効あるのみならず能く齦を緊め齒牙を保全し又克く口中の惡臭を去るを以て常時之を用れば身躰健康强壯にして神氣亦自ら發揚すべし

東京市横山町一丁目
小間物問屋
本舗　岳海屋　佐野善衛製

壽石鹼

◎鼈甲ふ入鬢御祝儀用櫛笄製造卸
東京下根岸町
三谷屋工場内
笹井音吉

●御年玉御歳暮景物送品に必要物賣出し

製本其他出來
全一冊金四錢（郵税二錢）（百部以上二錢三厘〇五百部以上二錢二厘〇千部以上二錢の割運賃ゆ自辨の事〇年賀文弁に浮名前入浮好みに隨ひ申候）

目次
●廿年略暦及七曜早見●皇室皇族一覽●帝王歴代表●年代表●文武高官一覽●帝國軍艦表●改正官府縣管轄國郡市區名一覽●各國貨幣度量衡對照表●米價早見表●利息早見表●三府新聞定價廣告料一覽●手形の心得●証券印税規則●必用規則●出訴期限規則●登記法●營業税法并要錄●酒造税大略●郵便規則大要●貨幣封入税表●爲替貯金●小包郵便●外國郵便の略則●東京局から各地取扱局迄里程及賃表●代金引換小包規則●汽車時刻表●日本郵船、大坂商船會社乘客船賃表●全國鐵道乘客賃金表●同線路圖●共に一名も漏れなく載せ、國民必用の重寶書なれば例年の如く歳暮に御送り申候●切迫候時は至然混雑延引の間成可至急に御注文被下度候

御寶

發賣本舗
東京馬喰町二丁目
淺井支店

發行所
日本橋區蠣殻町三丁目五番地
法木書店

特約大販賣
特約大販賣
特約大販賣

東京橋町四丁目
大坂南久寶寺町
備前岡山市西大寺町
函館末廣町
淺井覺本店
加澤井大寺内

定價
小貝一錢
大貝二錢
鑵入四錢

一日本之視玉三升翁化粧傳士光生の近來發明に係るかはりの梅一名樂屋にして翁多年精製せられたる經驗により精製し化粧下にして開闢以來に世界無比の一品なり其効能たるや第一きめを白くし色を白くし艶をまして玉の如くなり論常に是を用ふる時は皮膚及び傳染病惡疫の病毒を防ひ長命富貴光榮の有功なる品なり上かくのごとくなるの裏面に記し有り各店に御求御使用の上に効用速かなる事を乞ふ

元祖

大日本帝國農商務省御登錄濟

東京馬喰町壹丁目

小町水

岳陽堂平尾賛平製

別製大瓶　一箱十二本入
定價　一瓶廿五錢
大瓶　一箱十本入　全　十三錢
中瓶　一箱十五本入　全　八錢
小瓶　一箱廿四本入　全　五錢

●此小町水を弊店の發明製造にして平常是れを用ゆれば第一きめをこまかにしておしろいの毒をけし●ひゞ●そばかす●ふきでもめ●顔手足のあれ●こしわをのばし●夏は日にやけず●あせも●かくひ等の憂ひなき事は十有餘年以前より世人の賞賛せる良品なり●

●御[illegible]味詳を[illegible]仕候即ゞ[illegible]●四合入●八合五勺入●四合入は石油明箱へ十四本入●八合五勺入は石油明箱八本入●但四合入にて小町水八錢賣の瓶に凡そ一十七八本の詰替に相成申候●

衛生保險

登錄商標

貴婦白粉

一名 春宵おしろい

ダイヤモンド

製造元　東京　平尾賛平

水白粉定價
高等製十五錢
普通製十錢
煉白粉近日發賣仕候

本品は世上販賣品と異なり我國にて調劑せざる効驗藥品を以て製造し身體を害する事なく第一ひゞ●そばかす●はたけ●たむし●其外吹出物顔手足のあれ●こしわをのばし●夏日に燒ず●あせも●かくひ等の憂なく眞に潔白美艶なる肌となし「ダイヤモンド」の命名に背かず請ふ御使用上効能を知り賜へ

割引方法

三拾打以上五五掛●二拾打以上五六掛
拾二打以上五七掛●一打以上六掛
但し三拾打以上御注文之御方は一回限り御尊名入美麗なる木看板一枚進呈す又紙看板。フラフ。等精々澤山加入可仕候也

懐中 ゆたんぽ

新工美輕便(てがる)　東京馬喰町壹丁目　小町水本店平尾氏製造

此ゆたんぽは第一せんき持。なかくしやく持。ひゑはら。夜間讀書家不動業の人夜行旅行者等に必要の品なり

大形 四拾五錢
中形 三拾錢
小形 拾錢

例年之通り販賣仕り候間賣切に不相成候以前續々御注文願上候

小町水本店

平尾賛平